

こどもにすすめたい本

小学校
低・中学年
向け

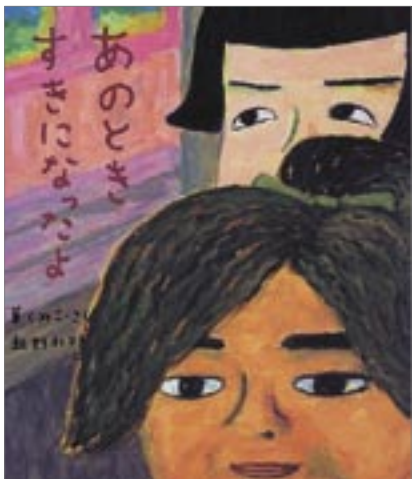
はっけん たからばこ

—本はともだち—



山梨県公共図書館協会

小学校低・中学年向けおすすめの本



『あのとすきになったよ』

薫 ぐみこ／さく 飯野和好／え
教育画劇

友だちになるのはどんな時？ ちょっとした偏見で
きらいだと思っていたクラスメイトが、ある事をき
かけに少しずつ仲良くなり、やがていつも一緒にい
たくなる存在に…。人のつながりは外見ではなく心
と心なんだ。そんな、心があたたかくなるおはなし。



『あらしのよるに (シリーズ)』

木村裕一／作 あべ弘士／絵
講談社

ごちそうなのに友だち？ 嵐の夜、暗闇で出会った
オオカミとヤギがお互いの種族の関係を超え、固い
友情を結びます。ハラハラドキドキするスピード感
ある展開が楽しめると同時に、意外な結末に心打た
れます。映画化もされた人気シリーズです。



『命の重さはみな同じ』

沢田俊子／文 野寺夕子／写真
学研

動物の孤児院ハッピーハウスには、人間に見捨て
られ命の危険にさらされている動物たちが保護され
ています。「全ての命の重さは同じ」という考えの甲
斐さんの活動を通して、命の大切さがあらためて伝
わってきます。



『ウェン王子とトラ』

チェン・ジャンホン／作・絵 平岡 敦／訳
徳間書店

子どもを人間に殺された母トラが夜ごと村を襲う。
困った王は占い師の予言で王子をトラのすむ森に置
き去りに。強く心優しい少年に育った王子は、やが
て人と獣のあいだに絆を結びます。水墨画で描かれ
たスケールの大きな絵本です。



『エルマーのぼうけん』

ルース・スタイルス・ガネット／さく
ルース・クリスマン・ガネット／え わたなべしげお／やく
福音館書店

エルマーは、竜を助けるために動物島にやってきた。島につくと、いろいろな動物に襲われるが、なんとか逃げ出した。でも、ようやく竜を見つけたら、動物たちが追いかけてきたからさあたいへん！ おもしろくて、ワクワクする一冊です。



『おかあさん、げんきですか。』

後藤竜二／作 武田美穂／絵
ポプラ社

「ありがとう」が素直に言えないぼくが、母の日に書いた感謝の手紙。なかなか文字にならなかったけれど、そこには普段言えなかったおかあさんへの願いが書かれていた。子どもの心の純粋さを再認識する一冊です。



『おじいちゃんがおばけになったわけ』

キム・フォップス・オーカソン／文
エヴァ・エリクソン／絵 菱木晃子／訳
あすなろ書房

ある日、死んだはずのおじいちゃんが、夜になってエリックの部屋へやってきた。でもなんだか様子がヘン。どうやらおじいちゃんはこの世に忘れ物があるらしい。その忘れ物とは…？「死」について、重くならず、しみじみ考えさせてくれます。



『おいしいのぼうけん』

古田足日／作 田畑精一／絵
童心社

さくら保育園には、こわいものが2つ。ひとつはおいしいで、もうひとつは、ねずみばあさん。ある日、あきらとさとしが、お昼寝の時間にあばれて、こわいおいしいの中に入れられました。ふたりの大活躍にハラハラ、ドキドキさせられます。



『おまえうまそうだな』

宮西達也／作・絵
ポプラ社

アンキロサウルスの赤ちゃんを見つけたティラノサウルスが、今にも飛びかかろうとしたその時！ うまそうなごちそうが、いつの間にか守ってあげたい大切なものになってしまう…。誰もがやさしい気持ちになれる絵本です。



『紙しばい屋さん』

アレン・セイ／作
ほるぷ出版

テレビのなかった時代、子どもたちの楽しみは紙しばい屋さん。時代の流れで紙しばい屋さんは町から消えた。昔、紙しばい屋さんをしていたおじいさんが久しぶりに紙しばいをするために町へ来て、拍子木を「カチーン」と鳴らすと…。



『キング牧師のカつよいことば』

ドリーン・ラパポート／文
ブライアン・コリアー／絵 もりうちすみこ／訳
国土社

人種差別に愛と勇気を持って立ち向かったキング牧師。正しいと思うことは信念を持って訴え、貫き通し、やがてひとりの勇気は世界中を動かしていきます。夢や希望の光を求めて、命がけで問うキング牧師の最後の言葉がいつまでも心に響きます。



『くまの子ウーフ』

神沢利子／作 井上洋介／絵
ポプラ社

ウーフは知りたがりやのくまの子。ウーフはおしっこでできているの？ くま1ぴきぶんは、ねずみ100ぴきぶん？ 「なんで？ どうして？」と疑問がいっぱい。いろいろ考えてウーフは答えを出していきます。きみのまわりには「？」があるかな。



『五体不満足』

乙武洋匡／著
講談社

「障がい者」という言葉から、どんなことを思い浮かべますか？ かわいそうな人って思っていますか？ 乙武さんなら、きっと笑いながら「そう感じる君のほうがかわいそうだよ」と言うでしょう。障がいとは、ひとつの特徴、個性なのだがこの本は教えてくれます。



『ごめんねともだち』

内田麟太郎／作 降矢なな／絵
偕成社

「ごめんね」が言えない苦しい気持ちのオオカミとキツネ。その感情の描写があまりにもリアルで、こちらまで苦しくなってしまう。ふたりがやっと「ごめん」を言って抱きついて何度も何度もほおずりするシーンは思わず涙が出ます。



『さっちゃんのまほうのて』

たばたせいいち／〔ほか〕共同制作
偕成社

さっちゃんたちは幼稚園でおままごと遊びをします。体の小さいさっちゃん、いつも子ども役ばかり。お母さん役になりたかったのです。そんなさっちゃんには生まれつき右手の指がありませんでした…。子どもの障がいに正面から接する母親の姿にも心をうたれます。



『しゅくだい』

宗正美子／原案 いもようこ／文・絵
岩崎書店

最近、赤ちゃんの世話でお母さんは大忙し。でも、今日の宿題はだっこ！ お父さんの強いだっこ。おばあちゃんの優しいだっこ。そして、お母さんのあたたかいだっこ。読んだ後にほのぼのとしてぎゅーっと抱きしめたくくなります。



『じゅげむ』

川端 誠／作
クレヨンハウス

念願の男の子を授かった夫婦が幸せに育ててほしいと願い、和尚さんに縁起のよい名前を相談。いろいろな名前の中から選ぶとしたのですが、全部つけちゃったからたまりません！ リズミカルな文章がとても楽しい落語絵本シリーズ第4弾です。



『スーホの白い馬』

大塚勇三／再話 赤羽末吉／絵
福音館書店

働き者のスーホは草原から白い子馬をつれて帰ってきました。月日が流れ、スーホと馬は殿様が開く競馬大会へ出ることに。殿様は、1等になったスーホの馬がほしくて取り上げてしまいます。白い馬の運命は…。悲しくて、感動的な物語です。



『せかいでいちばんつよい国』

デビッド・マッキー／作 なかがわちひろ／訳
光村教育図書

大きな国の大統領は、世界を征服するためにいろんな国へ戦争に行きますが、最後に残ったのは兵隊を持たない小さな国でした。本当の「強さ」とは何なのかをそっと教えてくれる優しい絵本です。



『だいじょうぶだいじょうぶ』

いとうひろし／作・絵
講談社

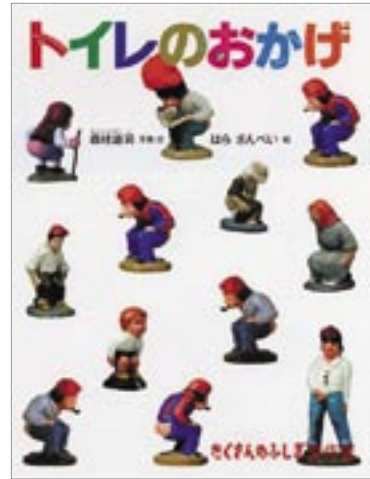
おじいちゃんのおまじないのことば“だいじょうぶだいじょうぶ” あれから僕はすいぶん大きくなったよ。今度は僕の番だね、おじいちゃん。この本を読んで、おじいちゃん、おばあちゃんと散歩にしてみよう！



『チームふたり』

吉野万里子／作 宮尾和孝／絵
学研

小学校最後の試合に向けて練習にはげむ卓球部の大地。下級生とダブルスを組むことになり落ち込んでいるところへ、学校でも家庭でも事件が起きて…。様々な出来事を乗り越えて大地が作り上げたチームとは。



『トイレのおかげ』

森枝雄司／写真・文 はらさんぺい／絵
福音館書店

ないと困る、あって当たり前。そんな“トイレ”のことを楽しく、そしてちょっとマジメに考えてみよう！「投げすてる」「修行する」「売る」「食べさせる」？一見、トイレに関係なさそうな各章のタイトルにも興味シンシン！



『図書館って、どんなところなの？ (図書館へいこう！1)』

赤木かんこ／文 すがわらけいこ／絵
ポプラ社

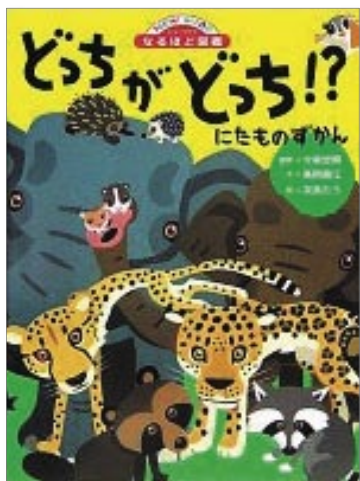
「図書館ってどうやって使うんだろう？」たいき、ゆう、まいのなかよし3人組が初めて図書館へやってきた。使い方を知れば知るほど便利な図書館。その基本を身近な話題とやさしいイラストでわかりやすく紹介したシリーズ第1巻です。



『としょかんライオン』

ミシェル・ヌードセン／さく
ケビン・ホークス／え 福本友美子／やく
岩崎書店

いつも静かな図書館に、ある日突然、ライオンがやってきた！でも館長さんは平気。「静かにお行儀よくできるのなら来ていいですよ」。ところがある日事件が…。規則って、ルールって絶対なの？図書館で起きた心あたたまる小さな奇跡のものがたり。



『どっちがどっち!?!』

高岡昌江／文 友永たろ／絵 今泉忠明／監修
学研

チーターとヒョウ、アシカとアザラシ、ムササビとモモンガ、どこが違うかわかるかな？ よく似た動物たちの見分け方を、かわいいイラストと、違いのわかる詳しいデータで教えてくれます。子どもたちの知的好奇心に応えてくれる一冊です。



『トマトさん』

田中清代／さく
福音館書店

暑い暑い夏の午後。熟れすぎて体が重くなってしまったトマトさんは、みんなと一緒に水浴びができません。そこで、友情大作戦のはじまり！ ページを開くと、ギラギラとした真夏が迫力ある絵で迫ってきます。



『どんなかんじかなあ』

中山千夏／ぶん 和田 誠／え
自由国民社

ともだちのまりちゃんは目が見えない。それで考えたんだ。見えないってどんな感じかなあって…。想像することは人を思いやることにつながると気づかせてくれます。本当の優しさを教えてくれる絵本です。



『長くつ下のピッピ』

アストリッド・リンドグレーン／作 大塚勇三／訳
岩波書店

ピッピはとても元気な女の子。お母さんがいなくても、お父さんが海へ吹き飛ばされても、涙を見せないで元気いっぱい生きています。時には、はでなケンカもするけれど、さりげない思いやりと、底抜けの明るさが私たちを優しく包んでくれます。



『花さき山』

斎藤隆介／作 滝平二郎／絵
岩崎書店

花さき山には、誰かがひとのことを思って優しいことをしたとき、ひとつの花が咲くという…。やまなばから聞いた話を村人は本気にしませんが、あやは“あっ、今、おらの花が咲いている”と思うことがあるのです。あなたの心には花が咲いていますか？



『100万回生きたねこ』

佐野洋子／作・絵
講談社

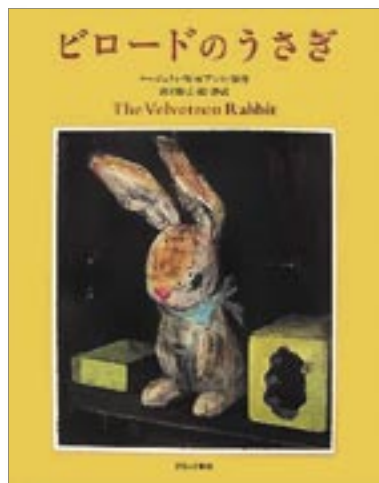
100万年も死なないねこは、100万回も死んでまた生き返ります。100万人の人がかわいがり、死ぬたびに飼い主たちは泣きました。でもねこは一回も泣きませんでした。そんなねこがある時、白いねこと出会い…。命とは、本当の愛とはなんでしょう。



『漂流物』

デイヴィッド・ウィーズナー／作
BL出版

少年が、海岸に流れ着いたカメラを現像してみると、そこには見たこともない海中の生物たちの世界があり、さらに1枚の人物写真が…。どんどんと流れていく物語は尽きることがない、言葉のない絵本です。



『ビロードのうさぎ』

マージェリィ・W・ピアンコ／原作
酒井駒子／絵・抄訳
ブロンズ社

クリスマスに、男の子の家にやって来たビロードのうさぎのぬいぐるみは「子どもに愛されたおもちゃはいつかほんものになれる」ということを知ります。うさぎの身に起こる奇跡とは？ いつまでも色あせない名作絵本です。



『ふたりはともだち』

アーノルド・ローベル／作 三木 卓／訳
文化出版局

かえるくんとがまくん、ふたりの愉快なやりとりが楽しい物語が5話収められています。どのおはなしからもうかがえる、かえるくんとがまくんの心が通じ合った親友ぶりはうらやましいほど。“友だちがいるって本当にいいな”と感じさせてくれます。



『ぼくがラーメンたべてるとき』

長谷川義史／作・絵
教育画劇

ぼくがラーメンたべてるとき、となりのミケがあくびした。そしてその同じ空の下で、遠く離れた国では何が起きているのだろうか…。少ない文章と挿絵の中で、平和へのメッセージが伝わってきます。



『ぼくのかわいくないもうと』

浜田桂子／作・絵
ポプラ社

僕には妹がいる。でも、ちっともかわいくなんかない。おしゃべりだし、すぐでしゃばるし。あ～あ、一人っ子に憧れるなあ。お兄ちゃん目線でも、妹目線でも楽しめる、愛情がギュッと詰まった絵本。ほのぼのします。



『干し柿』

西村 豊／写真・文
あかね書房

自然の恵みを生かした山梨の特産品「干し柿」の味を知らない人が増えています。渋柿を甘くする方法とは？「子供たちに伝統の味を知ってほしい」という作者の思いから作られた、心のこもった写真絵本です。



『盲導犬クイールの一生』

秋元良平／写真 石黒謙吾／文
文藝春秋

ラブラドル・レトリバーの子犬は、わき腹のカモメの模様から「ジョナサン」と名付けられました。やがて生まれ育った家を離れ、名前も「クイール」となり、立派な盲導犬となるよう訓練センターへ預けられます。盲導犬の生涯をモノクロの写真と共に綴ります。



『ルドルフとイッパイアッテナ』

齊藤 洋／作 杉浦範茂／絵
講談社

ルドルフは、ある日思いもかけず東京に来てしまいました。そして、そのボス猫のイッパイアッテナと出会い、とびきりゆかいなノラ猫生活が始まったのです。猫同士、また、猫と人間との愛情を味わうことができる一冊です。



『れいぞうこのなつやすみ』

村上しいこ／さく 長谷川義史／え
PHP研究所

暑い夏のある日、ぼくの家の冷蔵庫がしゃべった！「わたしも夏休みをもらってプールへ行ってみよう」人間だけじゃなく、みんな夏休みが欲しいらしい。女の子だった冷蔵庫と、けんいち一家のゆかいで楽しい3日間の物語。



『わすれられないおくりもの』

スーザン・バーレイ／さく・え 小川仁央／やく
評論社

誰からも慕われていたアナグマが年をとって死んでしまいました。友達を失ったみんなは、悲しみをどう乗り越えたらよいかわかりません。でも、つらい冬を過ごし、春になり、みんなはアナグマがすてきなプレゼントを残してくれたことに気づくのです…。

小学校低・中学年向けそのほかおすすめの本

書名	著者名	出版社名
あなたをずっとずっとあいしてる	宮西達也／作・絵	ポプラ社
あるひあひるがあるいていると	二宮由紀子／作 高島 純／絵	理論社
アンネ・フランクものがたり	ヨハンナ・ハルウィッツ／作 齊藤美加／訳 高田 勲／絵	金の星社
いいからいいから	長谷川義史／作	絵本館
いがぐり星人グリたろう	大島妙子／作	あかね書房
いっぱい泣くとどのどがかわくよ	アンケ・クラネンドク／著 サスキア・ハルフマウ／イラスト 長山さき／訳	パロル舎
いのちのおはなし	日野原重明／文 村上康成／絵	講談社
いのちは見えるよ	及川和男／作 長野ヒデ子／絵	岩崎書店
いわたくんちのおばあちゃん	天野夏美／作 はまのゆか／絵	主婦の友社
絵ときゾウの時間とネズミの時間	本川達雄／文 あべ弘士／絵	福音館書店
エリカ奇跡のいのち	ルース・バンダー・ジー／文 ロベルト・インノチェンティ／絵 柳田邦男／訳	講談社
オオカミと石のスープ	アナイス・ヴォージュラード／作・絵 平岡 敦／訳	徳間書店
大どろぼうホッツェンプロッツ	オトフリート＝プロイスラー／著 中村浩三／訳	偕成社
お皿のボタン	たかどのほうこ／作・絵	偕成社
落ち葉	平山和子／文と絵 平山英三／構成と写真	福音館書店
おひさまいろのきもの	広野多珂子／作・絵	福音館書店
おんちゃんは車イス司書	河原正実／原案 梅田俊作／作・絵	岩崎書店
がまの油	斎藤 孝／文 長谷川義史／絵	ほるぷ出版
火よう日のごちそうはヒキガエル	ラッセル・E・エリクソン／作 佐藤涼子／訳 ローレンス・ディ・フィオリ／画	評論社
彼の手は語りつぐ	パトリシア・ボラッコ／文と絵 千葉茂樹／訳	あすなる書房

はっけんたからばこ

本はともだち

書名	著者名	出版社名
きいろいばけつ	もりやまみやこ／作 つちだよしはる／絵	あかね書房
きみの家にも牛がいる	小森香折／作 中川洋典／絵	解放出版社
金色のクジラ	岸川悦子／作 狩野富貴子／絵	ひくまの出版
クジラも海でおぼれるの?	加藤由子／著 熊谷さとし／絵	偕成社
くるくるくるみ	松岡達英／さく・え	そうえん社
黒ねこのおきゃくさま	ルース・エインズワース／作 荒このみ／訳 山内ふじ江／絵	福音館書店
ごきげんなすてご	いとうひろし／さく	徳間書店
しあわせの石のスープ	ジョン・J・ミューズ／さく・え 三木卓／やく	フレーベル館
しずくのぼうけん	マリア・テルリコフスカ／さく うちだりさこ／やく・え ポフダン・ブテンコ／え	福音館書店
シモンのおとしもの	バーバラ・マクリントック／作 福本友美子／訳	あすなる書房
紳士とオバケ氏	たかどのほうこ／作 飯野和好／絵	フレーベル館
すき	谷川俊太郎／作 和田誠／絵	理論社
すら〜りウンチならべてみると…	西川寛／こうせい・ぶん 小宮輝之／かんしゅう 友永たろ／え	アリス館
すら〜りマメならべてみると…	高岡昌江／ぶん 深石隆司／しゃしん	アリス館
だいじょうぶだよ、ゾウさん	ローレンス・ブルギニョン／作 ヴァレリー・ダール／絵 柳田邦男／訳	文溪堂
てん	ピーター・レイノルズ／作 谷川俊太郎／訳	あすなる書房
どうぐはなくても	V・ピアンキ／原作 田中友子／文 N・チャルーシナ／絵	福音館書店
トキのキンちゃん	いもとようこ／作・絵	岩崎書店
となりのせきのますだくん	武田美穂／作・絵	ポプラ社
泣いた赤おに	浜田広介／作	偕成社

小学校低・中学年向けそのほかおすすめの本

書名	著者名	出版社名
なないろ山のひみつ	征矢かおる／作 林明子／絵	福音館書店
菜の子先生がやってきた！	富安陽子／作 YUJI／画	福音館書店
名前をつけるおばあさん	シンシア・ライラント／文 キャスリン・ブラウン／絵 まついたかえ／訳	新樹社
ねこのなまえ	いとうひろし／作	徳間書店
のはらうた（シリーズ）	工藤直子／作	童話屋
バスラの図書館員	ジャネット・ウィンター／絵と文 長田弘／訳	晶文社
はせがわくんきらいや	長谷川集平／著	ブッキング
ひとしずくの水	ウォルター・ウィック／作 林田康一／訳	あすなる書房
富士山大ぼくはつ	かこさとし／作	小峰書店
富士山の大研究	江藤初生／著 高田 勲／画 計良モトヒロ／CGイラスト	PHP研究所
ふたりでおるすばん	いとうひろし／さく	徳間書店
へいきへいき	内田隣太郎／文 竹内通雅／絵	講談社
ぼくのお姉さん	丘 修三／著 かみやしん／絵	偕成社
ぼくは王さま（シリーズ）	寺村輝夫／作 和歌山静子／絵	理論社
まっ黒なおべんとう	児玉辰春／文 長沢 靖／絵	新日本出版社
冥界伝説・たかむらの井戸	たつみや 章／作 広瀬 弦／絵	あかね書房
もったいないばあさん	真珠まりこ／作・絵	講談社
ヨンイのビニールがさ	ユン・ドンジェ／作 キム・ジェホン／絵 ピョン・キジャ／訳	岩崎書店
ライオンのしごと	竹田津 実／作 あべ弘士／絵	偕成社
わたしのいもうと	松谷みよ子／文 味戸ケイコ／絵	偕成社

このリストについて

- このリストは、文部科学省委託「子ども読書地域フロンティア事業」の一環として、山梨県公共図書館協会が、同事業やまなし実行委員会から委託を受け作成しました。
- 掲載した本は、山梨県内の公共図書館職員が、これまで出版されたものの中からこどもにすすめたい本100冊を選定したものです。
- 選定に当たっては、山梨県公共図書館協会児童奉仕研究部会が作成したリストやこれまで発行された各種のリストなどを参考にしました。
また、現在、書店や図書館で入手できるものを中心に選定しました。
- リストに記載した書誌事項（タイトル、著者、出版社など）は原則として本に掲載されていた表記を用いました。
- このリストのタイトル「はっけん たからばこ」は、「やまなし子ども読書フェスティバル」キャッチフレーズ部門で最優秀作品となった山内^{かのん}花音さん（甲府市立甲運小学校）の「本は、はっけん たからばこ」によりました。

こどもにすすめたい本

はっけん
たからばこ

小学校
低・中学年
向け

—本はともだち—

平成21年3月1日

編集・発行 山梨県公共図書館協会

〒400-0031 山梨県甲府市丸の内2-33-1 山梨県立図書館内

TEL 055-226-2586

FAX 055-226-2528

URL (山梨県立図書館) <http://www.lib.pref.yamanashi.jp/>